

こころつなぐ
2025年
夏



大和ハウスライフサポート株式会社
有料老人ホーム「もみの樹」「イオサミット」
季刊誌

こころつなぐVOL.32 (介護付有料老人ホームもみの樹 ネオ・サミット 情報誌通巻32号) 2025年6月発行

- 繁田雅弘医師
コラム
- 特集
- 認知症ケア
プロジェクト
- オンリーワン
プロジェクト

運動認知症とどう向き合うか 他者に委ねる? 自分で決める?

食・イベント・設備
実際の暮らしが分かる! 「ネオ・サミット湯河原」館内見学

サービスの品質向上を目指し優秀な認知症ケアスタッフを育成

もみの樹・横浜鶴見への感謝を込めてスタッフと外食したい

きほく燈籠祭

「こころつなぐ」

人と地域、そして心豊かな暮らしへの架け橋を築く
大和ハウスライフサポート。
そこには、ご入居者やそのご家族の
さまざまな夢や願いの実現をお手伝いしたいとの
想いが込められています。

0120-07-4165

受付時間:午前9時~午後5時



介護付有料老人ホーム
もみの樹・練馬
東京都練馬区平和台2-50-1



介護付有料老人ホーム
もみの樹・杉並
東京都杉並区和泉3-52-8



介護付有料老人ホーム
もみの樹・横浜鶴見
神奈川県横浜市鶴見区北寺尾4-3-1



介護付有料老人ホーム
もみの樹・渋谷本町
東京都渋谷区本町5-25-1



介護付有料老人ホーム・住宅型有料老人ホーム
ネオ・サミット茅ヶ崎
神奈川県茅ヶ崎市東海岸南4-3-3



介護付有料老人ホーム
ネオ・サミット湯河原
静岡県熱海市泉17-2



大和ハウスライフサポート株式会社

東京都港区三田3丁目1番7号 三田東宝ビル6階 〒108-0073 Tel 03-3456-4165(代表) Fax 03-3456-4175
当社は大和ハウス工業(株)の100%出資による子会社です。

大和ハウスグループの経営のシンボルである「エンドレスハート」は、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
© Copyright 2025 DAIWA HOUSE INDUSTRY CO.,LTD. All rights reserved.

We Build ECO | 森林育成紙™使用

認知症とどう向き合うか

他者に委ねる？ 自分で決める？

高齢化社会が進み認知症の方は増えていますが、認知症を自分事と捉えていない方も多いのではないのでしょうか。認知症になっても、生き甲斐を持ち、幸せに過ごす方法を一緒に考えていきましょう。

これから認知症に関わる2つの事例をご紹介します。どちらも実際の事例を部分的に変えた架空のものです。決してまれな事例でないことはわかっていただけだと思います。



繁田 雅弘 医師

栄樹庵診療所院長
東京慈恵会医科大学名誉教授
東京都立大学名誉教授
認知症の啓発を行う「SHIGETAハウス」開設者



私は医療の人間ですので、医療者の視点からのご説明になってしまうことをお許しください。

事例1 Aさんの場合

Aさんは、以前からご家族に物忘れを心配されていたこともあり、外来受診することになりました。医師から



はアルツハイマー型認知症と診断を受け、ご家族の賛成もあり、勧められた内服薬(コリンエステラーゼ阻害薬)を服用し始めました。さらに、ご家族の勧めで介護保険サ-

ビスを利用し、認知症のプログラムに参加しました。

その後、認知機能検査の結果が悪くなかったため、医師とご家族の勧めにより、新しい点滴の治療(抗Aβ抗体治療薬)も受けることになりました。

ご本人の状況は興奮するようなことはなく、精神症状(一般に言われている行動心理症状 Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia, BPSD)も認められませんでした。



田先生

この事例は一般的な認知症医療と認知症ケアの視点からすれば、問題は見受けられません。これまでの私なら、医療もケアも満点だと感じたと思います。でも、次の事例をみて少し考えが変わりました。

事例2 Bさんの場合

Bさんは以前からご自分のもの忘れに気がされており、ご家族も同様でした。Bさんは医療機関を受診することへの抵抗があったものの、その思いをご家族に話さうちに受診への決心ができました。

田先生

ご家族が初めから受診するように説得しようとしなかったことに感心しました。素敵なお家族だと思いました。

医療機関を受診したところ、アルツハイマー型認知症と診断されました。医師に進行を遅らせる薬



(コリンエステラーゼ阻害薬・Aさんと同じ)を勧められましたが、低頻度ながら、食欲低下や下痢、いらいらなどの気分の変化といった副作用が出ると聞き、Bさんは心配になりました。一方で、「効果があるなら飲んでみたい」という思いもありました。Bさんは副作用への不安をご家族や看護師に聞いてもらいうちに服用への気持ちが固まりました。

医師や看護師から、家で何もせず一人で過ごすより出かけた方がいいと認知症プログラムの利用を提案されたものの、人との付き合いが苦手なBさんは同意できませんでした。ご家族は参加を望みつつも「嫌なら無理しなくていい」と寄り添い、Bさんは認知症のプログラムには参加せず、一人で散歩をすることにしました。また、検査の結果、内服薬より効果の強い点滴治療も可能と言われましたが、脳浮腫や脳出血の危険が少しあると知り、Bさんは迷いました。ご家族は「どちらでも、後悔しないように自分で決めた方がいい」とBさんの意思を尊重してくれました。Bさんとしては「周りの人が見守ってくれるならよろうかな」と思う反面、定期的な点滴により生活が制約されることを懸念しました。点滴治療を受けなければ、病状は少し早く進みますが、自由な暮らしに魅力を感じ、「のんびり暮らしたい」と思いました。



田先生

AさんとBさん、どちらの経過がいいか考えることに意味があると思います。もちろん、自分で判断して効果が期待できる治療を受けられるのがベストですが、この2事例はどちらもそれとは違います。Aさんは、ご家族と担当医で全部決めてもらって治療を受けました。Bさんは、自分で考えて内服しましたが、点滴治療は受けませんでした。

あなたならどちらを望みますか？

あなたならどちらがいいですか？ 悩まなくていいので、人に決めてもらうほうがいいですか？ それとも自分自身で決めることを大切にしますか？ どちらがいいか考えたとき、あなたはどこに価値を置いて、良いか悪いかを考えましたか？ 治療やケアに何を望みますか？ 物忘れが悪化しないこと？ 精神的に安定していること？ ADL(日常生活動作)の維持？ それともQOL(生活の質)？ 生きがい？ 幸福感？ 本来は、何を基準にするかということも、あなたが決めるべきことなのです。

好みのメニューを美味しく食べやすく

もみの樹・杉並では、栄養バランスの良いメニューを常食、一口大、キザミなど、お身体の状態に合わせた調理法でご用意しています。ご提供の際は、温かい状態でお召し上がりいただけるよう、保温ワゴンで各フロアに運んでいます。体調が優れない方には、居室まで配膳するなど、個別の対応をとっています。

朝食は和食または洋食、夕食は週に2回メイン食材を肉と魚からお選びいただけます。昼食は和・洋・中とも、季節の食材を取り入れた様々なお料理をご用意しています。中でも毎週木曜日には、いつもより少し豪華な「なごみランチ」をお楽しみいただいています。



なごみランチ

- ある日の「なごみランチ」
- ・海鮮バラちらし
 - ・ごぼう天の煮物
 - ・白菜のお浸し
 - ・つみれのすまし汁
 - ・苺



ある日の夕食(ホキの照りマヨ焼き他)

食歳時で心も満ちる食生活

季節を感じたり、昔を懐かしんだりしていただけるよう、御節料理や年越しそばなど、歳時に合わせたお料理もご提供しています。また、毎月お誕生日会の日は、ちらし寿司などの豪華なお誕生日ランチメニューと、趣向を凝らした大きなケーキでお祝いをしています。



節分御膳 節分甘味



お誕生日メニュー



お誕生日ケーキ

楽しい参加型イベントも充実

園芸好きなご入居者が行っている園芸療法では、中庭やプランターでお花だけでなく、サツマイモや小松菜などの野菜も栽培し、収穫後は厨房で調理してご入居者にお出ししています。



園芸療法

6館合同旅行プロジェクト

1日目は各館オリジナルコース

ご入居者やご家族の想いに寄り添い、各館の垣根を越えて取り組む感動プロジェクトの一つ「旅行プロジェクト」として、5月20日・21日に伊豆稲取温泉一泊旅行を開催しました。



もちろん、介護・看護スタッフが日中夜間の付添い・同行を行い、安全・安心な旅行を徹底しました。今までは全館同じ旅行コースでしたが、今回は立地やご入居者の身体状況に合わせて、1日目は各館オリジナルのコースを計画しました。

6館全体でご入居者18名、ご家族4名にご参加いただきました。もみの樹・練馬からはご入居者1名、ご家族1名が参加され、9時30分に出発しました。海老名サービスイリアで昼食を済ませ、少し早めに伊豆稲取温泉のホテルに入りました。

初夏の伊豆稲取温泉旅行



もみの樹・練馬



少しお部屋で休憩してから、海が一望できる貸し切り大浴場で疲れを癒した後、伊豆の海の幸を味わいながら、カラオケをお楽しみいただきました。

見どころ満載！楽しみ満載！



翌日は6館合同で「象牙と石の彫刻美術館」に向かい、精巧な象牙や翡翠彫刻などを見学し、希望者は天然石のプレスレット作りに挑戦されました。昼食は道の駅「伊東マリンタウン」にあるレストランで、海の幸満載のお蕎麦付き松花堂弁を堪能いただきました。マリナーに停泊中の船越しに眺めた太平洋の風景も素晴らしいです。

そして、地元の水産物を使ったご飯のお供やお菓子などのお土産選びを楽しまれた後、帰路につきましました。

さらに、カフェ「Mominoki」でのベビーカステラ作りをはじめ、食事レクリエーションも好評です。

当館の玄関先にて出張営業する、毎週水曜日の移動スーパーと、金曜日の移動パン屋も人気で、ご入居者の皆様は、好きなお菓子やパンを楽しそうに購入して召し上がっています。



ベビーカステラ作り

食べることは、大きな楽しみであり、よりよい生活を営む上でとても大切なことです。

もみの樹・杉並では、味わいはもちろん、五感でお食事を楽しんでいた、だくことを忘れずに、これからも美味しく、楽しいお食事の提供に努めていきたいと思えます。



移動スーパー



「今度は北海道に行きたいな」という声が聞かれ、大変ご満足いただけたようです。

次回の秋旅行は、紅葉観光を検討しています。移動時間やご入居者の身体的負担を考慮すると、実際に赴くことが難しいため、館でお楽しみいただけるオンライン旅行を企画していきます。





近隣病院と連携し健康支援

2018年9月20日、医療法人社団輝生会 初台リハビリテーション病院(以下、初台リハ)との共同開催により、渋谷区の認知症カフェ『オレンジカフェ』をスタートし、地域の皆様に気軽に参加いただける場として賑わっていました。新型コロナウイルスの影響で休止となったものの、長い休止期間を経て、2023年7月ようやく再開することができ、スタッフ一同喜びを噛み締めています。

再開後の『オレンジカフェ』では、初台リハの皆様との連携をさらに強化し、毎回フレイル(虚弱)予防体操を取り入れるなど、より健康的な内容に進化しました。初台リハの専門職の方による指導のもと、無理なく体を動かせる体操は「楽しく続けられる」とご好評いただいています。



心身が喜ぶ園芸療法

また、最近では園芸療法士の先生監修のもと、もみの樹・渋谷本町の5階屋上庭園にて、季節の花やハーブを育てています。カフェの時間に参加者の皆様と摘みに行き、お花を使ったレクリエーションや、ハーブを使ったお茶をお楽しみいただいています。屋外で植物に触れる活動は、心身のよい刺激となっているようです。



続けやすい雰囲気も大切に

さらに毎月、初台リハの職員の方より、「今月はこれだけ頑張ってみましょう!」というテーマのもと、月替わりの体操と健康コラムをご提供いただいております。「先月の宿題、できましたか?」という問いかけか

2023.3.24Cafe サパン

今月の体操

【股の外開き】
股関節が柔らかく動きやすくなる。
左右それぞれ10回

今月の健康コラム

【フレイルとは】
健康と介護状態の間で、フレイルを予防することが健康に生活するための大切なポイントです。フレイルを予防するには3つのポイントがあります。
① 身体活動(歩く、筋トレ、エアロビクス)
② 社会参加(家族、友人、ボランティアなど)
③ 栄養(たんぱく質、ビタミン、ミネラル)

Cafe サパンは、初台リハの職員と輝生会(株)の職員が協力して運営しています。毎月、初台リハの職員と輝生会(株)の職員が協力して運営しています。毎月、初台リハの職員と輝生会(株)の職員が協力して運営しています。

ら始まる時間は、「やりました!」「ちょっとさぼっちゃった!」と笑い声があふれ、楽しく継続する工夫が随所にちりばめられています。



このような活動が継続できているのは、初台リハの職員の皆様のご協力があったことです。当館も地域の皆様にとって身近で役立つ存在となれるよう、さらに努めていきます。



音楽を通じてコミュニケーション

◆ウクレレサロン開催中
一般社団法人 日本音楽医療福祉協会 代表理事の落合洋司先生をお招きして、ネオ・サミット茅ヶ崎1階のラウンジで、外部の方にもご参加いただける「ウクレレサロン」を毎月開催しています。



初回の体験会では、ウクレレを奏でながら懐かしい歌を歌ったり、落合先生に音楽療法の効果や歴史についてうかがったりしました。ウクレレ初体験の方ばかりでしたが、皆様とても楽しそうに演奏されていました。

これからも音楽を通じて地域の方とのコミュニケーションの場を提供していく予定です。

ハワイのホノルル市と姉妹都市・茅ヶ崎らしいイベント

◆フラダンス発表会

地域で活躍されているフラダンスサークルの皆様をお招きし「フラダンス発表会」を開催しました。小さなお子様から大人の方まで、ハワイアン音楽に合わせて、素敵なフラダンスをご披露いただきました。中でも一生懸命踊るお子様たちの姿には、ご入居者も目を細め喜ばれていました。会場はとても盛り上がり、楽しい時間となりました。



◆ご入居者参加型の作品展

◆サミット美術館

毎年、ご入居者の作品を展示する「サミット美術館」を開催しています。今年も素

◆桜散歩

季節のお花を見ながらのんびりお散歩

穏やかな春の日、桜を観に出かけました。淡いピンク色の桜と青空の色彩がとても美しく、ご入居者の皆様はのんびりと鑑賞しながらお散歩されたり、写真撮影をされたり、満開の桜を満喫されました。



当館は一年を通じて、河津桜やぎざぎざの菊など季節のお花を楽しむお散歩イベントを実施しており、皆様大変喜ばれています。



歴史と伝統・人材を守り育て、ご入居者の快適な暮らしを実現

今回は来年40周年を迎える「ネオ・サミット湯河原」のスタッフに、仕事内容や力を入れている取り組みについてうかがいました。



— 皆さんは普段どのようなお仕事をされているのですか？

堺 私の仕事は館長として、当社の理念や方針、館方針を軸として、館運営する旗振り役です。時には地域に出て、館の宣伝告知活動なども行っています。

青木 自立のご入居者向けの常食やケアが必要な方の介護食のほか、昼食時に営業している喜楽亭の献立作成をしています。配膳時にご入居者からうかがったご意見を取り入れることもあります。

宮田 地元の食材を用いた四季折々のお食事をご入居者にご提供しています。外部委託せず、管理栄養士が栄養バランスを考え調理している点も当館の特長です。

小澤 営繕担当として、ご入居者の困りごとや修繕対応をしています。居室の改修や共用部の改修工事にも携わっています。

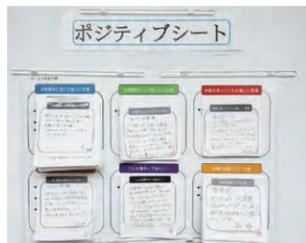
鈴木 生活サービス課は、介護が必要になられたご入居者に対し、食事を居室にお届けしたり、入浴介助をしたりしています。自立棟での生活が難しくなられた際には、ケア棟へお住み替えいただく

き、健康管理やリハビリを含む生活全般のお手伝いをしています。

— 少子高齢化で職員の採用が難しいご時世ですが、長く勤めてもらうために取り組んでいることはありますか？

堺 働き手が不足している昨今、選ばれる施設になるには、まず現職のスタッフを大切にすることが重要だと考えています。他職種連携を図りながら、職場環境の改善を続けていることもあり、社歴の長いスタッフが多いです。

宮田 ご入居者やご家族からのお褒めの言葉を「情報カード」に記録し、スタッフ同士の感謝の気持ちを「ポジティブシート」に書いて事務所内に貼り出し共有しています。お褒めの言葉を「言葉のご馳走」と呼び、職員のモチベーションアップに繋がっています。



「ポジティブシート」は職員の励み

西村 声かけをしたり、悩みごとを聞いた、積極的にコミュニケーションをとり、

加治 私は普段、お元気な自立のご入居者に関することは少ないですが、歳を重ねるごとに状態も変化するので、全てのご入居者の健康状態のヒアリングを定期的に行っています。今後もこれを継続し、健康維持をサポートし、病気の早期発見、早期治療に繋がれよう努めます。

青木 40周年記念日の夕食にお祝い膳をご用意するので、ご入居者に喜んでいただける献立を考えています。

堺 40周年を迎えるにあたり、ご入居者の生活に楽しみをご提供できるように、和室の一部改修や、イベントに歴代の館長を招待するなど、記念事業の計画をしています。



多くのゲストをお迎えした30周年記念イベント

微力ながら退職者を出さないよう努めています。

小澤 会社全体の取り組みとして、新入社員に他部署の先輩をメンター（新人や若手社員をサポートする人）としてつけ、1年間、月に一度面談を行い、不安や心配事などを聞いています。



青木 職員に人材を紹介してもらえよう呼びかけたり、メンター面談以外にも話しを聞く場を設けています。

— 職員確保のために、ほかにはどのような工夫をされていますか？

堺 当館は再入社する職員が多く、採用コスト面でも非常に助かっています。退職者を再度受け入れることに否定的な意見もあると思いますが、しっかり意思疎通を図り迎えるようにしています。

加治 退職された職員は自ら再入社を言い出しにくいと思うので、こちらから再入社への意思を確認しています。新入職員に対しては、不安や困りごとがないか聞くようにしています。

鈴木 今年は昨年度新卒入社の介護スタッフが当館に配属になったほか、夏以降、



西村 圭子 (総務課 係長)



堺 幸治 (館長)



青木 瑞穂 (管理栄養士)



宮田 博文 (食堂課 調理長)



鈴木 幸子 (生活サービス課 課長)



小澤 匠 (施設管理課 部長)



加治 美穂 (看護師)



櫻井 美世 (生活サービス課 ケアマネジャー)

楽しみ

充実の設備とアクティビティで元気に楽しく

フィットネスコーナー



景色も楽しめるフィットネスコーナーでは定期的に外部のインストラクターが来館し、トレーニング指導を受けることができます。

また、歩行能力を無料で測定し、レポートをお渡しするサービスも好評です。



アクティビティ



転倒予防セミナー

湯河原の春の風物詩、梅林の「梅の宴」もご入居者の楽しみの一つ。約4,000本の梅の木に、梅の花が紅白の絨毯のように美しく咲き、良い香りとともに春の訪れを告げてくれます。



梅の宴



日常の中に楽しみを感じていただけるよう、サークル活動や各種セミナーなどを開催しています。館の菜園を活用したサミットファームでは、大根、ほうれん草、レタス、里芋作りにチャレンジしており、収穫した野菜はお食事のメニューとしてご提供しています。

見学開始!

館長も含め、館スタッフのお出迎えにより、館内見学スタート。ご入居者の生活の場を紹介してもらいます。



居住棟玄関(顔認証システム)



各居住棟玄関には、セキュリティのために顔認証システムが完備されており、安心してお過ごしいただけます。また管理棟にあるフロントでは、日々の各種サービス受付やご来館されるゲスト様の受付などを行っており、24時間スタッフを配置しております。

ロビー



広々としたロビー

ロビーでは洋服や果物の販売会も実施しており、皆様お買い物を楽しまれています。

暮らし

快適な暮らしをもたらす設備と環境

浴室



湯河原の源泉から引かれた当館自慢の温泉です。ゆったりと浸かれる湯槽で、弱アルカリ性の良質な温泉をご堪能いただけます。



※加温・循環ろ過式

モデルルーム



さまざまなタイプのお部屋をご用意しています。お一人でもご夫婦でも、生活スタイルに合わせてお選びいただけます。

寝たきりなどの重度の介護状態になった際には、介護専用居室や浴室等のあるケア棟へ追加料金なしでお住み替えいただけます。



ケア棟居室

シャトルバスを運行

シャトルバスの定期運行もあるため、駅や商業施設への移動もスムーズです。お買い物などの外出にお役立てください。



美しい景色



当館の窓からは川沿いの桜を間近で眺めることができます。毎年「観桜会」を開催し、ご入居者もスタッフもお花見を満喫しています。見頃には夜間ライトアップも行っており、地域の方にも楽しんでいただいております。

見学者コメント

移住はまだ先と思っていましたが、観光のついでに見学させていただきました。お金以外にも準備しておかなければならないことも気軽に聞いてよかったです。



食

身体にも心にも嬉しいメニュー

食堂



2021年にリニューアルした食堂

陽光降り注ぐ広々とした食堂で外の景色を眺めながらお召し上がりいただけます。



昼食時には、メインダイニングだけでなく、レストラン「喜楽亭」が営業しており、季節を感じられるメニューをご用意しています。

多彩なメニュー

朝食と夕食は和・洋からお選びいただけます。管理栄養士が作成したメニューで、健康面に配慮したお食事をご用意しています。家庭的で飽きがこないよう配慮しています。また、歳時に合わせた「行事食」、毎月一度の「お寿司の日」や「お楽しみランチ」など、通常食以外のメニューもご提供しています。



朝食(和)



朝食(洋)

食・イベント・設備 実際の暮らしが分かる!
「ネオ・サミット湯河原」館内見学
今回は温泉地としても有名な湯河原駅から約900mのネオ・サミット湯河原をご紹介します。湯河原は夏涼しく、冬暖かい温暖な気候で、熱海や小田原、横浜、そして都内、どこへ行くにも便利。生活しやすい立地も魅力の一つです。

感動プロジェクト

認知症ケア

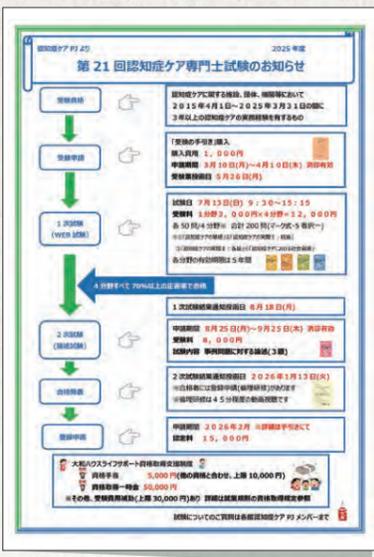
サービスの品質向上を目指し 優秀な認知症ケアスタッフを育成

当社ではサービスの質の向上を目指し、社内認定制度D'sケアマスターの育成に力を入れています。さらに、「認知症ケア専門士」の資格取得をケアスタッフだけでなく、看護スタッフにも推奨し、資格取得祝い金や資格手当を支給しています。



認知症ケア専門士 試験対策講座の開催

認知症ケア専門士の受験要件は、認知症ケアの実務経験が3年以上となっており、Webでの1次試験と記述式の2次試験があります。2024年度の合格率は45.7%、それ以前は50%台と、難しい部類に入ります。



受験する当社スタッフも周りの応援を受けながら、仕事の合間に勉強をしています。合格するには難しい状況です。不合格者の大半が「認知症ケアにおける社会資源」という試験分野で苦戦していました。

当社の理念にある「地域社会に求められる存在」を目指す上でも社会資源の理解は必須です。そこで、日本認知症ケア学会・代議員の高澤留美子様を講師に迎え、受験者全員の合格を目指した試験対策講座を開きました。

第1回は4月23日(水)にもみの樹・杉並の1階コミュニケーションルームと各館をオンラインで繋ぎ、導入オリエンテーションと社会資源の講義を、第2回の6月25日(水)には社会資源に特化した直前講座を行っていただきました。



第1回は試験の出題範囲や時間配分、事前課題の解答とミスしやすい点の説明から始まり、社会資源の中で出題頻度が高い、社会保障制度や所得保障制度についてご

「認知症ケア専門士」とは

認知症ケアに対する優れた学識と高度の技能、および倫理観を備えた専門技術士を養成し、わが国における認知症ケア技術の向上ならびに保健・福祉に貢献することを目的として設立された、一般社団法人日本認知症ケア学会認定の更新制の資格です。認知症介護従事者の自己研鑽および生涯学習の機会提供を目的に設けられました。

認知症の人ならびにご家族に対して、高い知識と技能に基づくサービスを提供することは、わが国の保険・福祉に大きく貢献されることが期待されます。



講義いただきました。また、利用されるご入居者も多い、成年後見人制度についても教えていただきました。

なお、講義の動画をeラーニング上で閲覧できるようにし、当日参加できなかった受験予定者を含め全員が何度でも復習できる環境も整えました。

この取り組みが少しでも受験者のやる気を後押しできていることを祈り、認知症ケアプロジェクトメンバー一同、来年1月の合格発表を楽しみにしています。

資格取得者の声



認知症ケアプロジェクト
本社事務局
立田 惇

認知症ケアプロジェクトが社内のみならず、対外的な取り組みにも目を向け始めた2020年、プロジェクトメンバーとしてより広い見識を持ちたいと考え受験しました。

認知症ケア専門士は所定の単位を修め資格更新していく、「学び続ける」ことが求められる資格です。これからも仕事や暮らしに役立つ学びを体得していきます。



もみの樹・横浜鶴見 館長
真壁 英次

実際に認知症ケアの現場で働く中で抱いた疑問や課題意識、そしてより質の高いケアで認知症で困っている方々に貢献したいという思いから資格取得を目指しました。

今後は様々な認知症ケアに関わる研修を受け、日々学び、共感し寄り添える介護を目指し、その方らしく平安にお過ごしただけようサポートしていきたいと思っています。



ネオ・サミット湯河原 副主任
箕田 和馬

認知症ケアプロジェクトを通して認知症ケア専門士を知り、会社では資格対策講座を設けてくださることもあり受験を決意しました。「ケアまる」というアプリを使用して、電車通勤中も勉強しました。

資格取得後も「SHIGETAの学校」と連携し、単位を取得できるよう会社が支援してくれるので、安心して認知症の学習を継続できています。

感動プロジェクト

H様(80代前半)

要支援2

もみの樹・横浜鶴見

オンリーワン

もみの樹・横浜鶴見への感謝を込めて スタッフと外食したい

【ご入居の経緯・ご様子】

持病や住環境を考慮し施設生活へ

H様はご自宅で糖尿病や高血圧症などの服薬と食事制限をされていましたが、ご夫君に先立たれ独居生活となりました。エアコンがなく、お風呂やトイレが明かりのない地下にあり、住環境の安全性も懸念されたことから、2023年4月、不安な一人暮らしをやめ、もみの樹・横浜鶴見にご入居されました。

ADL(日常生活動作)は自立されており、外出は普段から一人で頻回にされていますが、健康維持・ADL向上のために、もみの樹・横浜鶴見の機能訓練指導員



笑顔でリハビリ中

H様は普段食事制限があり、館外で初めての飲酒となるため、万全を期して介護スタッフだけでなく看護スタッフも同行しました。H様はおすすめのお酒と大好きな生ビールを堪能し、いつもよりたくさんお話しされていました。



大好きな生ビールで乾杯



絶品のフカヒレに舌鼓



スタッフと「中華菜館 同發 本館」にて

による個別の機能訓練以外にも平日に1時間程、多目的ルームにて自主的にリハビリをされています。日頃より誰とでも気軽に話し、ペットロボットLOVOTの『あずき』と『きなこ』とも毎日遊ばれています。日々のアクティビティのほか、個別にフラワーアレンジメントサークルや、地域の方々との交流の場である『もみの樹cafe』にも積極的に参加されています。



フラワーアレンジメント完成

【ご入居者の思い(理由・背景)】

H様の思いをうかがい、外食を計画

ご入居から1年後にH様から「1年経つ

その後、H様の強い希望で、同行できなかつたスタッフへ月餅などのお土産を購入されて帰館となりました。



スタッフへのお土産を購入

【取り組みを終えて】

大満足で早くも次回が楽しみに

H様からは「凄く楽しかった。わがままを聞いてくれて本当にありがとう。また行こうね」「次は横浜中華街の広東料理の老舗『萬珍樓』に連れて行きたい。あそこも美味しいから。今度はおこげもね」と、とても楽しそうにおっしゃっていました。

【最近の「様子」】

夢が膨らみリハビリに奮闘中

H様は今年の初めに外出された際、転倒により右大腿骨頸部を骨折し入院されました。その後、手術と急性期リハビリを行い、もみの樹・横浜鶴見に戻られました。帰館後は館内リハビリのほか、訪問リハビリも導入して、「一人で外出できるようになりたい。ゆくゆくは旅行にも行きたい」と、歩行を中心に訓練されています。

感動プロジェクト 「オンリーワン」とは

ご入居者が人生でやり残したことや、諦めてしまっていることを実現できるようお手伝いさせていただき、その人らしさを取り戻す機会をご提供しています。

日々の生活の中で目標に向けて励む充実感や、夢を実現した達成感を味わっていただけるプロジェクトです。

「た、もみの樹へお礼をするように」との亡きご夫君からの遺言通り、「スタッフのみなど食事に出かけて、お礼をしたい」とお話がありました。糖尿病により食事等の制限があるため、主治医に相談し許可を得た後、外食の計画を立て始めました。

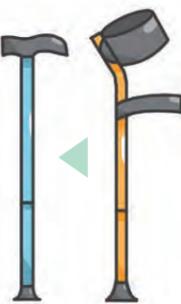
また、ご入居当初から「焼き鳥屋さんや昔なじみの横浜中華街にスタッフと行きたい」とおっしゃっていたため、第一弾として焼き鳥屋、第二弾で横浜中華街に行くことになりました。

【実施内容】

お気に入りの料理と会話をご満喫

第一弾の焼き鳥屋は、スタッフの親族が働いている鶴見駅近郊のお店にしました。

5月には、ロフトストランドクラッチ(前腕部支持型杖)からT字杖に変更になり、館内は一人で歩けるところまで回復されています。



スタッフボイス

焼き鳥屋さんで中華街での食事会に同行させていただきました。H様はスタッフとの外食をとっても楽しみにされており、計画中也「楽しみだね。いっぱい食べようね」と、お会いする度に声をかけてくださいました。

日常生活の中で食事や飲酒などに制限があるため、外食の機会はH様にとって何よりストレス発散になっているのではないかと感じています。今後も主治医と連携を図り、H様と相談をしながら、新たな計画を立てていきたいと思ひます。



もみの樹・横浜鶴見
サービス責任者
小松 かのり